



## 副校長室より



令和3年度第1号 令和3年4月19日

### ごあいさつ

この4月に副校長として赴任しました竹崎修次（たけざき しゅうじ）です。よろしくお願いします。

私の妻の実家が学校のすぐそば、という縁もあり、私にとって掛合は「第二のふるさと」です。春の新緑、夏の星空、冬の雪景色など、これまで慣れ親しんできた学校で勤められる幸せを、生徒の皆さんや先生方と分かち合いながら、明るく元気に頑張りたいと思います。

さて、学校生活での生徒の皆さんの活躍や様々な出来事、学校周辺の様子・変化などを、このお便りでお知らせすることにしました。今回はその第1号です。

時間の空いた時に、少し目を通してもらい、家に帰った時に、家族や親戚の方との会話の中で、このお便りを使ってもらえればうれしいです。どうぞよろしくお願いします。



### 一言コラム ～掛合と言えば「相撲」～

掛合と言えば、思い浮かぶのが「相撲」です。掛合高校にもかつて相撲部がありました。

掛合が相撲どころとなったのは、昭和57年に開かれた国民体育大会島根大会（くにびき国体）の相撲競技の会場が掛合町になったからで、その当時、掛合高校にあった柔道部の生徒（当時、掛合高校の柔道部は強豪で、昭和50年には県総体で団体優勝しています）が相撲を掛け持ちで行うようになり、「柔道相撲部」となったようです。

その後の掛合高校の相撲競技での活躍は華々しく、県総体の相撲競技に参加した昭和58年から平成10年までの間に、7大会連続を含め、合計8回の団体優秀を飾っています。

そんな、掛合ですから、誰か大相撲界に有名人はいないかなと思って探してみると、いました！

佐渡ヶ嶽部屋に所属する幕内呼出（よびだし）に琴三（ことそう）さんという方がおられます。部屋のホームページを見ると、昭和46年掛合町生まれ（副校長と同学年であり、もしかしたら中学校時代に対戦していたのかもしれませんが）であることが分かりました。



呼出（NHKのHPより転載、琴三さんではありません）

## 四季彩々 ～季節の移り変わり～

掛合高校のシンボルツリーと言えば、玄関前にある3本の「メタセコイア」です。

今月から校舎の外壁工事が始まるため、作業の邪魔にならないよう、残念ではありましたが、枝や幹の一部が切り落とされ、かつての高さほどではない姿となってしまいました。

このメタセコイア、いつからこの地にあるか知っていますか。資料によると、今の校舎が竣工したとき（昭和32年）に地域の方々によって植えられたものだそうです。植樹された時は高さが160センチほどだったそうですから、60数年の間の成長ぶりに驚かされるばかりです。もとの姿に戻るのも、すぐなのかもしれません。



## 令和3年度掛合高校教職員

|      |       |             |       |       |             |
|------|-------|-------------|-------|-------|-------------|
| 学校長  | 山崎 誠  |             | 家 庭   | 北浦 紀子 | 3年正担、○進路指導部 |
| 副校長  | 竹崎 修次 | （地歴公民）      | 家 庭   | 遠藤 聡子 | 2年副担、保健指導主任 |
| 国 語  | 亀尾 佳宏 | 2年正担、○生徒指導部 | 商 業   | 奥井 司  | ◎総務部        |
| 地歴公民 | 岡 一宏  | ○総務部、寮務主任   | 養護助教諭 | 藤原 潮美 | 保健指導        |
| 数 学  | 角田 有希 | 1年副担、◎教務部   | 図書館司書 | 原 弥生  | 図書指導主任      |
| 理 科  | 大門 透  | 1年正担、○教務部   | 校務技術員 | 渡部貴恵子 |             |
| 保健体育 | 本間 英之 | 3年副担、◎生徒指導部 | 後援会事務 | 難波 亜衣 |             |
| 英 語  | 大野真由子 | ◎進路指導部      | 教育相談員 | 阿部 敦子 |             |



晴耕雨読 ～天候に合わせた無理のない心豊かな生活を～

今年度がスタートして2カ月が過ぎようとしています。特に4月に入学したばかりの1年生は、緊張感からやや解放され、逆に疲れがどっと出てくる頃ではないでしょうか。

そんな中、5月11日(火)に、2年生が雲南市吉田町内の宇山地区を訪れ、稲の手植え体験をしました。今年の2年生は、「総合的な探究の時間(※)」を利用して、ブラ



ンド米である「うやま米」について調査。販売店さんや商品パッケージのデザイナーさんなどをゲストティーチャーとして招きながら、販路拡大に向け、高校生目線で有益な提案をする活動を行う予定です。1年生、3年生の取組も含めて、今後の地域をフィールドとした学習活動がどのように展開するか、とても楽しみです。

※「総合的な探究の時間」令和3年度の学習活動

- 1年生：掛合町内5地区(波多、入間、掛合、松笠、多根)に分かれ、地域の現状と課題を調査。課題解決策を提案。
- 2年生：宇山営農組合、雲南市等との協働により、「うやま米」の生産・加工・販売の流れを体験的に学習。販売戦略案を提案。
- 3年生：これまでの地域学習の総括として、雲南地域全域を対象に地域の現状と課題を調査。卒業研究として地域活性化策等をまとめ、発表。

さて、今年は例年よりも22日早く、5月15日に「梅雨入り」をしました。これから雨の日が多くなり、じめじめした日が多くなることが予想されます。また今年は、新型コロナの影響であまり外出することもできず、気が滅入ってしまいがちになります。

逆にこんな時こそ、家や寮でじっくりと落ち着いた生活をしてみてはどうでしょうか。

最近、私が出会った本を紹介します。マンガです。竹川弘太郎作、ももなり高画『マンガ論語と孔子』と吉川英治原作、石森プロ画、竹川弘太郎シナリオ『マンガ三国志』(ともに飛鳥新社)です。

『論語』『三国志』とも、これまでに国語の授業など、どこかの場面で出会ったことのある人が多いかもしれません。特に『マンガ論語と孔子』では、私もよく知らなかった孔子の人生が、『論語』に載せられた多くの言葉とともに紹介されています。

ちなみに、74歳で亡くなる直前に、弟子の子貢に「人生で一番大事とされることを一言で」と問われた孔子は、「自分がしてほしいと思うことは、他人にもすべきではない」と答えたそうです。つまり、人への「思いやり」ですね。

この季節だからこそ、天候に合わせた無理のない生活で日頃の疲れをいやし、心豊かな生活を送りたいものですね。



## ひとことコラム ～総理大臣を生んだ町「掛合」～

みなさんは、この雲南市掛合町から日本の総理大臣が生まれたことを知っていますか。最近ミュージシャンのDAIGOさんの活躍で有名



酒蔵「竹下本店」。現在も「竹下登」の表札がかけられている。

になりましたが、そのお祖父さんにあたる、故竹下登元内閣総理大臣です。

竹下元首相の生家は掛合町民体育館から旧国道を南におよそ500m行ったところにある、酒蔵「竹下本店」です。現在は「かけや酒蔵資料館」としても広く観光客に紹介されています。

先日、私はこちらを訪れ、現在もここで昔ながらの酒造りが行われていることの説明を受けたり、併設された竹下

登記念館に収蔵された貴重な品を見させていただきました。

竹下元首相は、1987年（昭和62年）11月から1989年（平成元年）4月まで、第74代内閣総理大臣の職を務められました。今でこそ「地方創生」とか「地域再生」などの言葉が当たり前のように使われていますが、竹下元首相はそれを「ふるさと創生」という言葉で提唱され、東京一極集中から地方への流れを生み出すきっかけ作りをされた方です。

現在、消費税は当たり前のように考えられていますが、日本の財政を支えるために、消費税が初めて導入された（当時は3%）のは竹下内閣の時からです。知っていましたか。

現在の菅首相が第99代内閣総理大臣。総理大臣の職に就いた人はこれまでに63人しかいませんから、掛合町は、全国でも数少ない「総理大臣を生んだ町」の一つなのです。

ちなみに島根県出身の総理大臣はもう一人、若槻礼次郎元首相（松江市出身）がおられます。若槻元首相は1926年（大正15年）1月から1927年（昭和2年）4月までの在任ですから、大正から昭和、昭和から平成へと元号が変わる激動の時代に、たまたまですが島根県出身の2人が総理大臣を務めたということになります。



竹下登元内閣総理大臣



生家に飾られている総理大臣任命証書



道の駅「掛合の里」緑地公園に立つ竹下登元首相の銅像

## 四季彩々 ～季節の移り変わり～

校舎の外壁工事が進んでいます。作業現場の方にはできるだけ授業の妨げとならないよう配慮をいただいておりますが、工事の音を完全になくすことは難しく、とても心苦しく思っています。



教室棟から見える  
ヤマボウシの白い花

さて、教室棟の階段に新しく大きな窓が設置されました。この窓から、山の新緑や季節ごとに咲くたくさんの花を眺めることができます。この窓から注がれるたくさんのグリーンシャワーを浴びれば、少し目覚めの悪い朝も元気がでそうですね。





## 掛高には「本物」がある ～掛高式「学び」のスタイル～

夏らしい季節になりました。今年は例年より早く梅雨に入り、じめじめした日が続きますが、暑さ本番はこれから。熱中症には細心の注意を払ってほしいと思います。

さて、最近になって校内各所に右のポスターが貼られていることに気づきましたか。毎年、この季節は、中学校3年生が卒業後の進路を考える時期でもあり、各高校が中学校に向いて、学校の特色や授業・部活動などについての説明を行います。実はこのポスターは、4つ折りにたたんで、近隣の中3生全員に配っているものです。

自分が通っている学校について深く考えることは少ないのかもしれませんが。出会った人に「あなたの学校はどんな学校ですか？」と聞かれて、ひとことで答えられるでしょうか。せっかくなので、この機会に掛合分校の「学び」の特色について考えてみましょう。

# 掛 合 分 校

KAKEKOU GUIDE PAPER

鳥取県立三刀屋高等学校  
掛合分校  
学校紹介  
KAKEKOU GUIDE

4つの掛高式「学び」のスタイル  
1 学び直しの掛高

✓ ゆとりある3カリキュラム  
✓ 50分授業、毎日6時間の授業  
✓ 掛高オリジナルの「掛高基礎力テスト」

1年 2年 3年

小さな挑戦、小さな善行、大きな志  
掛高には「本物」がある。

2 交流・体験の掛高

3 発信・発表の掛高

4 進路実現の掛高

23 短期大学 2名  
各種専門学校 21名

45 ほとんどが地元企業に就職

## 掛高式「学び」とは

### ① 学び直しの掛高

- ・50分授業、1日6時間の毎日固定した時間割が「生活のリズム」を作ります。
- ・「生活のリズム」は、やがて心に「ゆとり」を生み出します。
- ・心に「ゆとり」を持った状態で、基礎・基本を改めて学び直すところから始めます。

- ・授業が「わかる」ことが、「自信」につながります。「自信」はやがて地域・社会に貢献しようとする「チャレンジ」精神を養います。

## ② 交流・体験の掛高

- ・「総合的な探究の時間」に地域をフィールドとした交流・体験学習を行います。  
1年生：掛合町内調査、2年生：農業体験・職業体験、3年生：卒業研究
- ・小学生への読み聞かせやごみゼロ大作戦など保・小・中学校とともに活動します。
- ・このような地域学習を通じて、地域社会の理解と、地元への貢献意欲が生まれます。
- ・さらに海外研修での交流を通じて、世界的視野で地域を見つめる姿勢が生まれます。

## ③ 発信・発表の掛高

- ・グループや個人で調べたことや提案したいことをプレゼン資料にまとめます。
- ・文化祭や卒業研究発表会で、全校生徒全員が発表（プレゼン）する機会を持ちます。
- ・みんなの前でプレゼンするためには、緊張や不安を克服するための「繰り返しの練習」が必要です。この経験が、将来社会人として生きるための大切な力を磨きます。

## ④ 進路実現の掛高

- ・掛高の特色ある「学び」は、将来「自立」した大人となるための知識・技能と、地域・社会の課題解決に向けて「挑戦」するための姿勢・意欲を生み出します。
- ・「自立」「挑戦」は、高校卒業後に社会人として求められる大切な資質・能力です。
- ・3年次には、第一志望の学校・企業等への進学・就職率100%を目指します。

「私が通う掛高（カケコー）は、〇〇な学校です。」それぞれが学校への愛着と誇りをもって学校を熱く語れるくらいに、「掛合分校」について改めて考えてみたいですね。

## 四季彩々 ～季節の移り変わり～

3年生が授業「里山の生態」の時間に、校舎東側段丘面にある学校管理地の「開墾」に取り組んでいます。ここはかつて掛合分校のバレーコート（昭和61（1986）年まで。昭和62年から平成5（1993）年まではテニスコート）



Before（4月26日の作業の様子。  
前途多難な幕開け）



After（畑の完成。奥にはかつての  
バレーコートの支柱が残る）

があったところで、これまで長らく使用されていなかった場所です。作業が始まった4月



昭和61年度の学校要覧（バレーコートの横に畑がある）

は先行き不安で途方に暮れていましたが、苦難の末、立派な畑が完成しました。夏から秋にかけてナス、ピーマン、ミニトマトなどを収穫予定です。

ちなみに過去の資料を見ると、バレー（テニス）コートの横に平成6（1994）年まで「畑」の記載があります。27年ぶりの掛高畑の復活です！



掛高には「本物」がある ～掛高には、君の未来があります。～

体育祭が終わりました。今年は準備期間から雨に泣かされましたが、まずは体育祭が盛会に行われたことの喜びを皆で分かち合いたいと思います。お疲れ様！ナイスパフォーマンスでした！

さて、前号に続いて右のポスターについての続編。今回は裏面を取り上げます。

掛高の部活動の特殊性は皆さんもよく知っていると思います。特に「ASR部(体育系専門部)」の活動は、他校に例を見ないものです。生徒が季節に合わせて主体的に種目を選択できるところや、地域の行事に参加し、地域を盛り上げることを目的とした活動(相撲やムカデ駅伝など)は、日本全国で行われている部活動の常識をくつがえし、部活動の在り方に一石を投じる「画期的な」活動だと思っています。

そもそも「sports スポーツ」の語源は、ラテン語の「deportare デポルターレ(荷を担わない、働かない)」であるとされ、「気晴らしをする、楽しむ」が本来の意味とされています。来週には東京オリンピックが開かれますが、何が何でも金メダルを取るといった精神や、あくまでも上位入賞が目的であるといった考え方は、「competition コンペティション(競技、競争)」ではあっても、「スポーツ」の本来の意味とはかけ離れたものです。競技に敗北した結果、「悲しみ」や「苦しみ」だけが残ってしまっては意味がありません。

話が横道にそれましたが、言いたかったことは「ASR部」の活動はとても「価値ある」活動だということです。「UTB部」の各部・同好会も、文化活動を「楽しむ」といった観点から、同様に「価値ある」活動です。是非、そのような思いをもって活動してみると、これまでと違った見方ができるのかもしれません。

私達は誇りと愛情を持って、掛合分校のことを「<sup>ナカコ</sup>掛高」と呼んでいます。

**体育系専門部 ASR部**  
軟式野球、卓球、サッカー、バドミントン、バスケット、バレーボール、駅伝、相撲  
多くの生徒が、部活動に参加しています。複数の部活動を兼ねることも可能です。

**文化系専門部 Universal Teki Bunka UTB部**  
パソコン、書道、ESS、デザイン・イラスト、演劇、UTaBu、琴奏

**本物の少人数教育**  
生徒一人に全教職員が支援できる環境。

**掛高には、君の未来があります。**

**本物の地域密着**  
地域の発展と心通う支援。

**校訓 志操堅固**  
自分の考えや志を固く守って貫くこと

**アケサママップ**

鳥根県立三刀屋高等学校 掛合分校

〒690-3701 鳥根県三刀屋市掛合町南会3601 TEL (0854) 62-0084 FAX (0854) 62-0080  
https://www.uhimeschool.ac.jp/takagane/ (五 登 校 日)

# 掛高にある「本物の学び」とは

## ① 本物の少人数教育

- ・掛高は、島根県立高校36校のうち、最も生徒数の少ない高校です。
- ・生徒数が単に少ないことをもって「本物」と言っているわけではありません。
- ・生徒一人に対してすべての教職員が支援をできる環境が整っていることこそが「本物」なのです。学年を超えて、生徒一人一人の顔がよく見え、学校全体が一つの家族、コミュニティのような存在に感じられること。まさに「本物の少人数教育」です。

## ② 本物の地域密着

- ・花田植えや滝踊りなど掛合町の伝統行事にたくさん参加する機会があります。
- ・そのようなイベントに参加し、地域を盛り上げることも大事ですが、そのことだけをもって「本物」と言っているわけではありません。
- ・通学路での何気ない挨拶や会話を通して、地域に住む人と触れ合い、話をよく聴くこと。そして、自分にとっての地域とは何か、地域に自分がどのように貢献できるかを考え、提案し、行動する機会が豊富にあること。これこそが「本物の地域密着」です。

## ひとことコラム ～「掛合（かけや）」で学ぶことの意味～



左のマークを見たことがありますか。勘のいい人は気づくかもしれません。体育の時に町民体育館のステージ上に見えるあのマーク。これは、平成の市町村合併（平成16年）により雲南市が誕生するまで、旧飯石郡掛合町の町章であったマークです。この意味するところ、分かりますか。

実は「×（かける）」と「+（たす）」の組み合わせ。「×」は「掛（ける）」、「+」は「合（わせる）」を意味し、その組み合わせが「掛合」なのです。

この地が「掛合」と呼ばれ始めたのは戦国期だそうですが（校長室だより第14号参照）、「かけや」の語源はよく分かりません。ですが、「+」も「×」も共に生活には欠かせないもので、例えば一人では動かせない物も10人の力が合わされば動くようになります。また、一人一人の人間が互いにに関わり合い、個性と個性が掛け合わされることで、集団として質的变化（イノベーション）が起こります。



掛合町内すべての世代が関わりながら取り組む「ごみゼロ大作戦」

話が難しくなりましたが、「+」（物理的な量的変化）と「×」（化学的な質的变化）は人間社会にパワーを生み出します。そういった意味で、6月17日に行われた「ごみゼロ大作戦」は「掛合」を象徴する取組の一つだと思っています。保・小・中・高・大人の年代も個性も違う人たちが「力を合わせ（+）」それぞれが「関わり合いながら（×）」量・質ともに充実した成果や満足感が得られる。まさに「掛合」で学ぶことの意味がここにあるのだと思います。

右の写真は、講堂のステージ上に掲げられたマークです。このマークは、昭和42年に講堂が建てられた時に、ステージ上に掲げられたことは分かっていますが、このマークが当時の何を表しているのか、今となってはよく分かりません。このステージ幕を寄贈した当時の掛高卒業生たちが、「掛合」で学ぶことの意味を在校生たちに引き継いでほしいとの願いを、このマークに託したのかもしれません。



講堂のステージ幕に掲げられたマーク（昭和42年卒業生会寄贈）



令和3年度第5号 令和3年9月29日

2学期が始まり、ひと月あまりが立ちました。今年の夏は大雨や台風に見舞われ、自宅などが被害にあった皆さんには、大変辛く苦しい夏となりました。新型コロナウイルス感染症対策も先の見通しが見えない中、私たちにできることは常に「3K」(2学期始業式の山崎校長先生訓話より)を胸に刻みながら、毎日を送っていくことではないでしょうか。

## 「3K」を胸に刻んで～感動、感謝、気遣い～

### 「感動」 ～真新しくなった校舎で学びを深める～

今年度当初から行われていた校舎の外壁工事が終わりました。1学期は校舎の周りに足場が組み、閉塞感のある教室の中で、工事の音にも悩まされる日々であったと思いますが、ようやく真新しくなった校舎の全容が明らかになりました。

新しくなった校舎は、板壁調のベージュ色が玄関前の3本のメタセコイアや、背後の山々の緑ととてもマッチしているように感じます。

この校舎、建てられたのはいつ頃か知っていますか。掛合分校の創立は、1953(昭和28)年(再来年度に70周年を迎えます)、その4年後の1957(昭和32)年1月25日に現在の校舎が竣工しています。したがって間もなく築65年を迎える木造校舎です。



「SDGs(持続可能な開発目標)」という言葉が注目されている今、少しずつ修繕しながらも古き良きものを残し、自然環境に適合していこうとするエコロジーの精神は、この校舎でこそ生まれるのかもしれない。



### 「感謝」 ～私たちの学びは「地域」によって支えられている～

《グラウンド整備をしていただきました》

普段何気なく使っている学校内の施設や設備ですが、私たちが気付かないところで、誰かの手によって保守・整備がなされ、私たちの快適な学習環境が守られています。

2学期が始まって間もなく、掛合自治振興会の皆様によって、グラウンド整備がなされました。分校の他にも小中のグラウンドや野球場の整備など、町内の子どもたちのためにご尽力いただいています。本当に有難く、お礼の言葉もありません。



《中澤建設様、山陰合同銀行様から大画面テレビを寄贈いただきました》

8月20日（金）、掛合町の中澤建設様と山陰合同銀行掛合支店様から、授業で活用する大画面テレビの寄贈をいただき、その贈呈式が行われました。この大画面テレビの寄贈にあたっては、以前から地域の学校の教育活動のための寄付をしたいとの大変有難いご提案を両社からいただいており、この度の65型大画面テレビ設置の運びとなりました。



2年生教室にあったTVは玄関  
受付の案内表示として活用

寄贈いただいた大画面テレビは2年生教室に設置され、すでに教育用動画の視聴や学習資料提示にフル活用されています。



## 『気遣い』 ～「地域」との触れ合い、そして「地域」への恩返し～

さて、このような「感動」「感謝」の念を、どのように具体的な「行動」として返していけばよいのでしょうか。

今年の夏休み、1年生有志が町内小学生を対象とした学習会の運営スタッフとして、ボランティアで出かけました。また、



1年生 学習会ボランティア



2年生 お米の販売戦略提案

2年生は吉田町のブランド米「うやま米」の販売戦略立案として、お米のイメージキャラクターや販売のキャッチコピーを考えました。このような地域の人との触れ合いの中で、他者への思いやりや優しさ、「気遣い」の心を自然と感じたのではないのでしょうか。

「自主的」と「主体的」、2つの言葉の違い、分かりますか。「自主的に掃除をする」とは言いますが、「主体的に掃除をする」とはあまり言いません。つまり、やるべきことが決まっているものを自分から進んで行うのは「自主的」、やるべきことは決まっていないが、状況に応じて自らの意思で行うのが「主体的」です。「自主」から「主体」への行動変容を促すもの。それは他者への「気遣い」なのかもしれません。

## 「自主」から「主体」へ

## 四季彩々 ～「ちいさい秋」を見つけよう～

グラウンド外ののり面に「彼岸花」を見つけました。秋ですね。秋には自然がいろいろな表情を見せます。彼岸花の赤や紅葉の赤、银杏の黄色、ビビッドな色合いの一方で、それとは対照的に落ち葉の茶色は何か心を落ち着かせます。英語で秋は「autumn（オータム）」と「fall（フォール）」の2つの言葉があります。「fall」は「落ちる」を意味し、まさに落ち葉を連想させますが、イギリスでは消極的な「fall」よりも、「収穫期」を表す「autumn」の方がポジティブで好まれ、多く使われるのだそうです。表情豊かな「秋」。皆さんが見つける「ちいさい秋」はどんな表情をしているのでしょうか。





# 「主体的に」行動する

前回の副校長室だよりで、「自主的」と「主体的」の言葉の違いについて触れました。「自主的」はやるべきことが決まっているものを自分から進んで行うこと、「主体的」はやるべきことは決まっていないが、状況に応じて自らの意思で行うことを指します。

「主体的に」行動する。“言うは易く行うは難し”です。6月に、生徒全員を対象にWEB回答で行った、アンケート調査結果を見てみましょう。

## 生徒対象アンケート調査（6月実施）結果より ※昨年度は9月実施

アンケート調査は、いくつかの質問項目に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の4段階で回答。「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合は次の表のとおりです。

| 質問項目                           | 掛合分校  | 昨年掛合  | 県全体   |
|--------------------------------|-------|-------|-------|
| 自分で計画を立てて活動することができる            | 54.7% | 45.9% | 63.2% |
| 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する        | 57.8% | 39.3% | 73.4% |
| 学習を通じて、自分がしたいことが増えている          | 84.4% | 72.1% | 79.9% |
| 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った | 56.3% | 47.5% | 55.9% |

アンケート調査の結果から、掛合分校生徒の肯定的回答の割合は、すべての質問項目について昨年度よりやや改善しているものの、県全体と比べるとほぼ同じ割合か、やや低いことが分かります。また、学習を通じて「自分がしたいことが増えている」反面、それを「自主的に調べ物を行う」といった行動に結びつけられていない傾向が見てとれます。

せっかく沸き上がった「学びへの意欲」を、具体的な「行動」に結びつけることはできないものでしょうか。

## 雲南市「スペシャルチャレンジ」に参加してみませんか

雲南市が行っている「スペシャルチャレンジ Jr.プログラム」（通称：スペチャレ）は、高校生が雲南市を舞台に、それぞれが考えたオリジナルのプロジェクトを計画・立案し、その実現に向けて挑戦的な活動を行う、約半年間のPBL（プロジェクトベースドラーニング）です。3年前から行われており、これまで50名以上が参加してきました。

参加者は、個人またはグループで、それぞれが考えたプロジェクトの内容を審査会でプレゼンし、アクションを起こすための資金を獲得することに挑戦します。もちろん、そこで得た資金は、市民の税金からまかなわれており、好き勝手に使うことは許されません。活動にあたっては、「地域社会への貢献意識」といった強い責任感が求められます。

資料提供：NPO法人カタリバ

今年度春夏シーズンに参加した生徒が取り組んでいるプロジェクトの例を紹介します。

### 田井の魅力を伝えたい!

「田井の魅力をもっと同世代に知ってほしい」という想いから始まったプロジェクト。地域の魅力を伝えるダンス動画を作成しています。

### 応援プロジェクト in 松笠

- ・自分が住んでいる松笠地区が大好き!
- ・松笠地区をたくさんの人に知ってもらいたい!

### 地域の子もたちと思い出づくり Project

小～中高年生

### 笑顔プロジェクト

「出産後、育児で大変なお母さんに笑顔になってもらいたい」という想いから始まったプロジェクト。産後の知識や先輩お母さんからのアドバイスを盛り込んだ日めくりカレンダーを作成しています。

### サンライズプロジェクト

「お世話になった地域に恩返しをしたい」という想いから始まったプロジェクト。預かり保育をPRする宣伝ポスターを作成しています。

### みんなも笑顔に

「みんなが美味しく楽しく食べられるお菓子作りがしたい」という想いから始まったプロジェクト。自慢の地元食材を使いながらどんな人でも笑顔になれるお菓子を作るプロジェクトに挑戦中!

©2021 春夏シーズン掛合分校生の活動 **“KAGURAプロジェクト”**

春夏シーズンには、3年生の青木涼さん、内藤大空さんが参加しました。「地元の神楽団の活動をできるだけたくさんの人に知ってもらいたい」という強い思いから、神楽のイラストをプリントしたバッグを作成し、関係者に配付することを発案。そのための資金を得て、現在も活動中です。



プロジェクトの実現に向け活動  
する青木涼さんと内藤大空さん

**2021 秋冬シーズンに、2年生4名が参加しています!!**

10月24日(日)、今年度秋冬シーズンのスタートアップイベントが行われました。掛合分校からは2年生の佐藤里咲さん、藤井遥翔さん、細田悠美子さん、三澤朋佳さんの4名が参加しており、この日は同じく参加した三刀屋高校、大東高校の生徒を交えた総勢13名で、最初のプログラムに臨みました。このプログラムを運営するNPO法人カタリバの皆さんの進行のもと、これまでプログラムに参加した大学生5名を交え、お互いをファーストネームで呼び合うリラックスしたムードの中で活動を行いました。



掛合分校から参加した4名の今後の活躍が楽しみです。